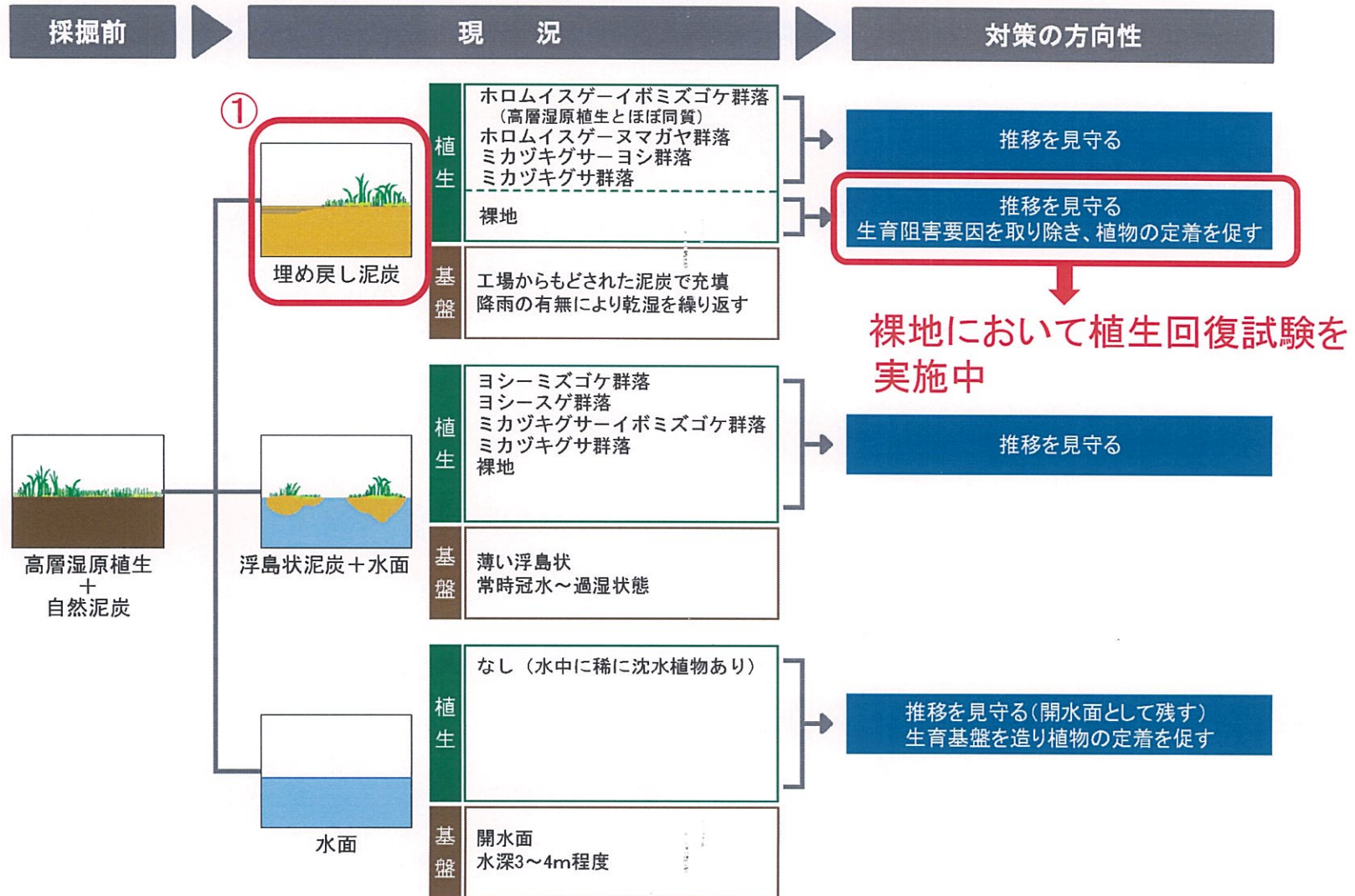




### 3. 泥炭採掘跡地の植生回復試験について



# 泥炭採掘跡地における自然再生事業の方向性



# 植生回復試験の実施位置

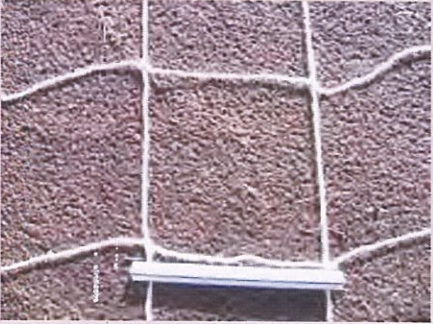

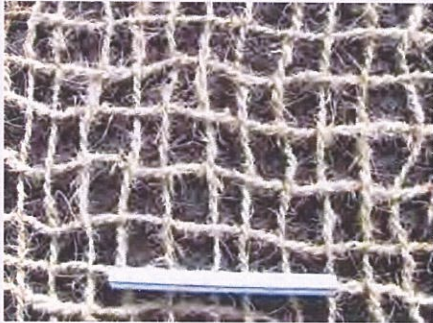


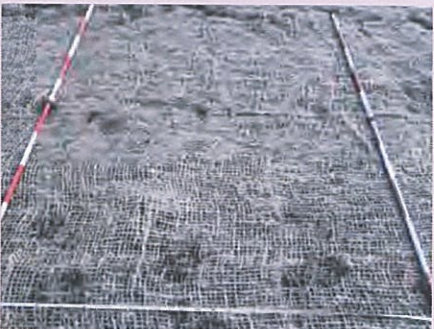
サロベツ湿原センター

※平成23年10月26日～10月28日に施工

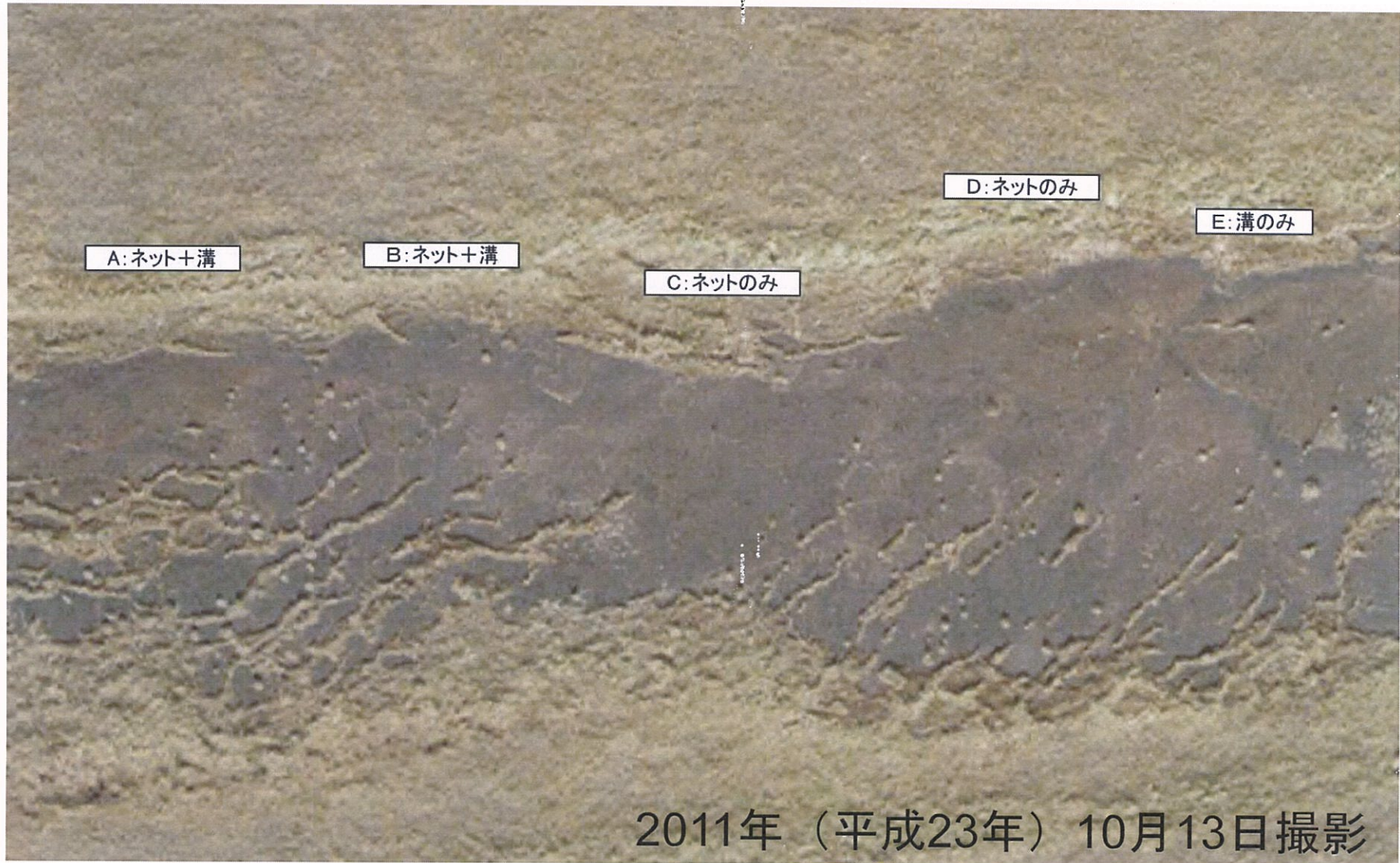
植生回復試験地の設置



# 植生回復試験の概要

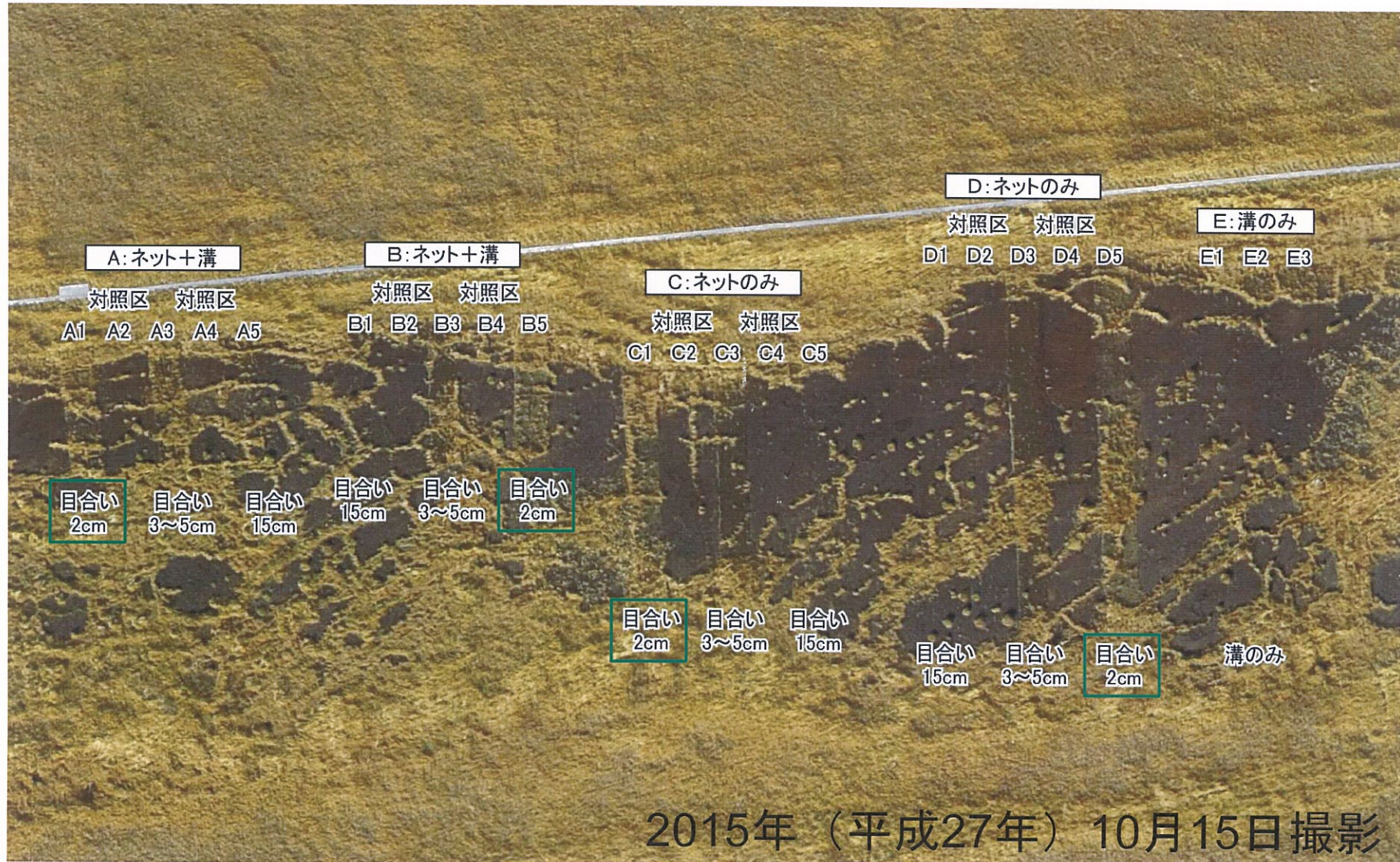
ネット種類	素材概要	施工写真
①目合い 15cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性	 
②目合い 3~5cm	天然繊維ヤシ 100% 生分解性	 
③目合い 2cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性	 

# 植生回復の状況



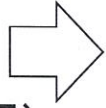
2011年（平成23年）10月13日撮影

# 植生回復の状況

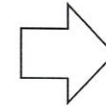


# 植生回復試験地の変化状況

2011年10月27日

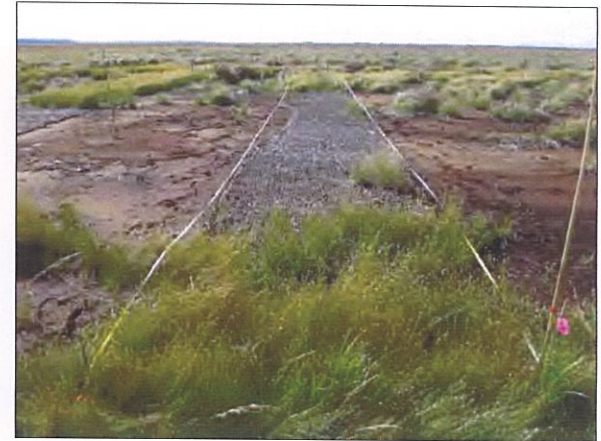


2013年7月20日



2015年9月11日

■ ネット目合い 3~5cm (D3区)

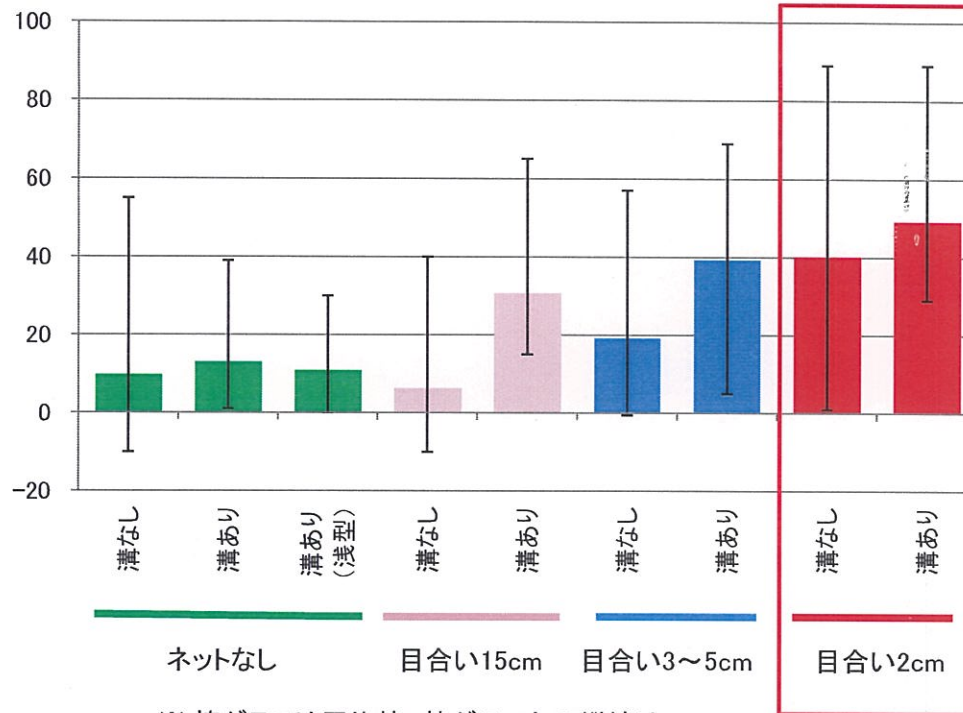


■ ネット目合い 2cm (C1区)



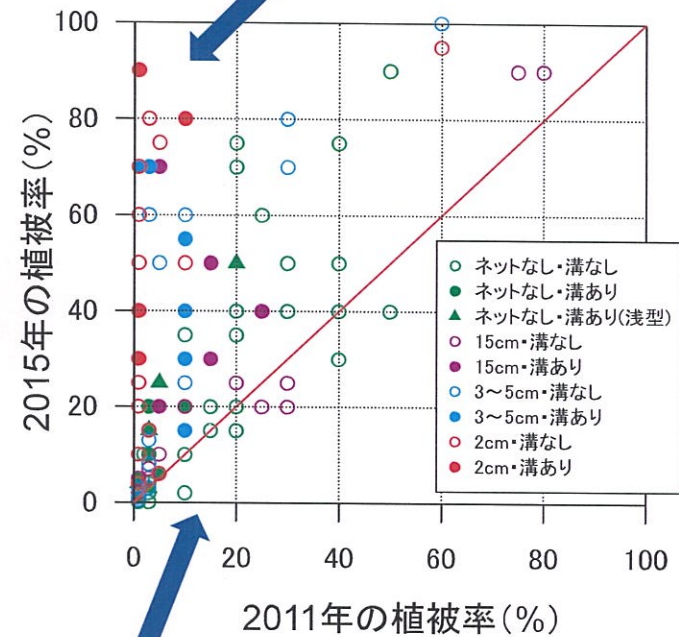
# 植生コドラート調査結果のまとめ

2011年から2015年までの工種別の植被率増減(%)



※ 棒グラフは平均値、棒グラフ上の縦線は最大値と最小値を示す。

植被率の増加大



大幅に増加した箇所あり

減少した箇所あり

- ・「ネット目合い2cm」のコドラートにおいて、植被率の増加傾向が顕著であった。「ネット目合い3~5cm」のコドラートでも植被率の増加傾向が認められた。
- ・全体的にミカヅキグサの被度の増加が目立ち、サワギキョウ、モウセンゴケ等が分布範囲を拡大していた。
- ・「ネット目合い2cm」のコドラートで新たにウメバチソウ、ナガバノモウセンゴケが確認された。
- ・「溝あり」のコドラートのほうが「溝なし」よりも植被率の増加が大きくなる傾向が見られたが、「目合い2cm」では溝の有無にかかわらず良好な結果であった。



## 調査結果のまとめと今後の対策の考え方

- ①第一段階としての植生回復対策については十分な知見が得られたものと思われ、植生回復をさらに加速するために、周辺裸地に施工範囲を展開していく。
- ②ミカツキグサ等を主体とする裸地からの植生回復後に、その他の種(スゲ類やヌマガヤ等)の定着による多様性の回復や植生遷移が順調に進行するかどうか、より長期にわたって推移を見守る必要があると考えられる。
- ③現在の植生回復試験地は、中長期的な視点での植生遷移を確認するため、モニタリングについては継続する。